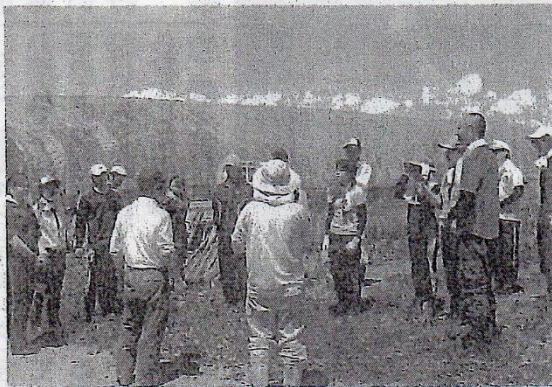


諏訪地方の初任教諭が農業体験

原村の実践大学校

今年度から諏訪地方小中学校の教壇に立っている初任教諭たちの農業体験研修が4日、原村の八ヶ岳中央農業実



農業体験をする諏訪地方の初任教諭

践大学校で行われた。教諭たちは、農作業などを通して農作物を育てる知識を身に付けていた。

命をばぐくむ農業の体験を通して、子どもたちを育てる

原点についても学ぼう」と諏訪地区市町村教育委員会が主催。諏訪地方9校の初任教諭15人が参加した。

教諭たちは、大学校教職員から専門的な指導を受けながら、畝たてや土づくり、レタスやナデシコの定植、養鶏作業、ジャガイモの収穫などを体験した。

富士見町富士見小学校の田中真任教諭(22)は「農作業のポイントなど多くのことを学べた。子どもたちが野菜作りをしているので役立てたい」と話していた。(保延悟)

原村の魅力ぎっしり

まるごと収穫祭 カボチャ工作人気

ぎょうまで

原村商工会と原村観光協会が主催する第11回八ヶ岳まるごと収穫祭は23、24の両日、同村農場の八ヶ岳中央農業実践大学校敷地内で開いている。テーマは『みのり』『匠』『知恵』の秋。会場の直売所周辺の芝生の広場には多くの人が訪れ、収穫の秋のイベントを楽しんでいる。長野日報社後援。(倉本敦)



村内のさまざまな産業が、会にと毎年開いている。今集まって、技能を地域に広く知ってもらい、さらに生産者や消費者が触れ合う機会も設けられている。今年も体験コーナーやふれあいマーケットコーナー、アートワークショップ広場などが設けられている。

毎回人気のハロウィーンのカボチャ工作体験もあり、多くの家族連れが参加しては思い思いにカボチャの顔の飾り物を作っていた。

同村中新田から家族で訪れたという会社員、篠原俊一さん(33)は「ハロウィーンに合わせて玄関先を飾っているの、ここで作ったのも一緒に並べます。意外に大変ですがそれも楽しいですね」と、オレンジ色のカボチャをくり抜いていた。

会場には高所作業車の試乗体験や各種工作体験、豚汁の振る舞い、除雪機やバイオ燃料車の展示、熱気球搭乗体験なども行われている。

↑.....
並んだ中から気に入ったハロウィーンの飾り用のカボチャを選ぶ来場者たち

花の直売 ハウスに春の香り 八ヶ岳中央農業実践大学校



色鮮やかな花が並んだ八ヶ岳中央農業実践大学校の直売所

原村の八ヶ岳中央農業実践大学校は4日、冬期に休んでいた花の直売を再開した。室温20度のガラスハウスの直売所には、学生が育てたビオラなど約50種類の苗や寄せ植えの鉢計約5千個が並び、一足早く春の香りが漂っている。

花卉・果樹専攻の1〜2年生8人が栽培から販売までの実習として苗を栽培。寒さに強いビオラとパンジーだけでも85種類、約3万ポットを育てており、順次直売所に並べる。鮮やかな黄や紫、3色の花びらなど彩り豊か。プリムラやキンギョソウも並ぶ。

ビオラを27ポット買った諏訪市湖南の会社役員藤森裕江さん(75)は「たくさん種類があつて楽しい。庭に植えたり、寄せ植えに使ったりするつもりです」と笑顔。2年

の吉野元春さん(20)は「売れた花がお客さんの家できれいに咲いてくれるとうれしい」と話していた。

1ポット80円から。営業は午前9時半〜午後4時半。10日が休業で、それ以降は12月下旬まで無休で営業する予定。問い合わせは同校直売所(☎74・2175)へ。

広い知識身に付けて

農業実践大学校で入学式

原 村



入学生を代表して宣誓をする相馬さんと今年度入学した生徒たち

原村の八ヶ岳中央農業実践大学校の入学式は4日、同校が入学し、それぞれが目指すで開いた。大学、短大の課程を修了した研究科(1年)に

全国の18歳から35歳までの生徒が入学。小口英吉校長は式辞で「自然の摂理に沿った、農業や農村、命あるものなどを基盤とした国家のあり方が強く求められる時代。幅広い知識と能力を身に付け、高邁な人格をはぐくみ、日本をリードする指導者に育つことを期待する」と励ました。入学生徒を代表して研究科の

相馬信行さんは「農の分野で自己実現できる人間となるよう努力する」と誓いの言葉を述べた。

農業の道目指し

被災地から3人

東日本大震災の被災地から、宮城県仙台市の高橋求さん(26)と同県大崎市の只笠章太さん(18)、岩手県花巻市の深沢明さん(18)の3人が入学した。郷里の一日も早い復興を願いながら、自身の夢の実現に向け、日々の実践を通して農業を学ぶ。

大学卒業後、会社勤務をしていた高橋さんは「自分で農

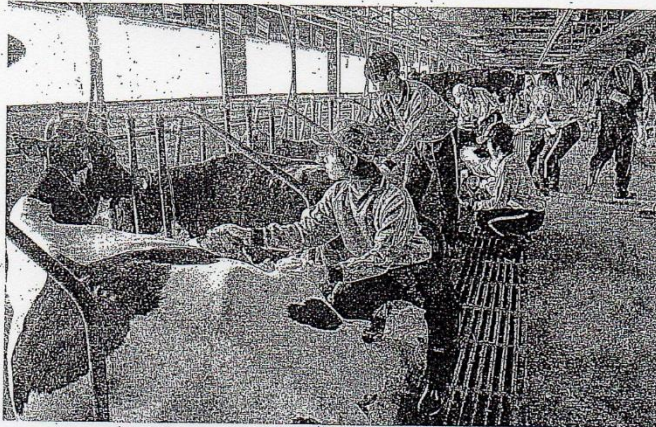
作物を作り、自主性のある仕事をしたい」と農業を志した。大震災の影響で入学試験に來られず、同校の配慮で後日、都内で1人だけ入試をしてもらった。

実家は非農家で高校も普通科を卒業した深沢さんは、自然が好きだったことやテレビで牧場を営む家族の姿を見ることがきっかけで農業に興味を抱いた。「将来は畜産か作物園芸を行いたい」という。実家が畜産や水稲、野菜などの農業の只笠さんは「動物や体を動かすのが好きだったし、家業を継ぎたい」と話した。(保証悟)

原村の八ヶ岳中央農業実践
大学校は、農林業の体験学
習をする県内外の小中学生ら
でにぎわい始めた。5月に入
り400人を超す生徒が訪れ
る日もある。生徒たちは、都
会では機会が少ない家畜の世
話や野菜づくり、植林に汗を
流している。今年度も7月
月を中心に、東京都などから
昨年度並みの約150校約1
万7000人が訪れる予定
だ。

今年も人気 農林業体験

原村の農業実践大学校 県内外から小中学生



修学旅行で訪れ、乳牛の世話を体験する千葉市の中学3年生

農林業体験学習は、199
5年に千葉真の中学校の要請
で行ったのが始まり。以来
「作物や家畜、森林に触れて

作業をすることで農業や食
自然、環境問題に理解や関心
を深めてほしい」と受け入れ
ている。近年は教育ファーム
としてすっかり定着。地域住
民ら38人の指導員が講師を務
めている。

毎年、3年生が修学旅行で
信州を訪れている千葉市の中
学校は今年初めて日程に同大
学校での農林業体験を盛り
込んだ。生徒183人が村内
のペンションに2泊3日で分
宿。16日は、グループごと
に乳牛の世話などの実習を行っ
た。男子生徒は「初めてしか
に牛と触れ合い、命の大切さ
を考えることができた」と話
していた。

同校の男性教諭は「都会で
はできない自然と触れ合う体
験ができるのが信州の魅力。
ペンションに泊まり、地元の方
との交流もできた」と話し
ていた。(保延悟)



ハロウィーンカボチャ人気

ハケ岳実践大 学生と教員収穫

ハケ岳の麓、標高約1300
0 村にある原村のハケ岳中央
農業実践大で、「ハロウ
イーンカボチャ」の収穫が行
われている。同校教員と学生
↑
ハロウィーンカボチャを収
穫する学生たち

が広大な畑に実ったカボチャ
を丁寧に収穫し、一部は構内
の直売所で販売も始めた。
約4・3畝の畑に約1万3
000株を定植しており、約
3万個の収穫を見込んでい
る。栽培担当は同校専修科の
1、2年生10人で、深夜から

早朝にかけてセロリの収穫
出荷作業を終えた後、日中に
カボチャを収穫する。
今年、ハロウィーンカボ
チャ産地の北海道が、度重な
る台風被害で生産量が減少し
たこともあり、例年以上に同
校への問い合わせが多い。大
量購入するのは全国のテーマ
パークやショッピングモ
ール、スーパー、ホテルなど。
大阪府のひらかたパークから

は3000個の注文があった
という。
毎日、全国各地から購入者
が詰め掛けている。同校は20
〜30畝のサイズが売れ筋で、
年々販売数も増加し、毎年購
入する人が多い。保存環境が
よければハロウィーンまでは
十分に持つ」と話している。
カボチャに関する問い合わせ
は同校(電話0266・74
・2111)へ。(浜武司)



長野県原村

色も形も多彩に

冷涼地で

シクラメン

「シクラメンは、花の色も形も多彩で、冬から春にかけて長く楽しめる花です。長野県原村では、冷涼な気候がシクラメンの栽培に適しています。伊藤さんは、シクラメンの栽培に情熱を注ぎ、様々な品種を育てています。」

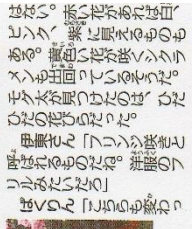
「シクラメンは、花の色も形も多彩で、冬から春にかけて長く楽しめる花です。長野県原村では、冷涼な気候がシクラメンの栽培に適しています。伊藤さんは、シクラメンの栽培に情熱を注ぎ、様々な品種を育てています。」

シクラメンの栽培修行

ぼくが学習帳



「シクラメンは、花の色も形も多彩で、冬から春にかけて長く楽しめる花です。長野県原村では、冷涼な気候がシクラメンの栽培に適しています。伊藤さんは、シクラメンの栽培に情熱を注ぎ、様々な品種を育てています。」



「シクラメンは、花の色も形も多彩で、冬から春にかけて長く楽しめる花です。長野県原村では、冷涼な気候がシクラメンの栽培に適しています。伊藤さんは、シクラメンの栽培に情熱を注ぎ、様々な品種を育てています。」



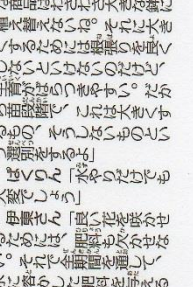
「シクラメンは、花の色も形も多彩で、冬から春にかけて長く楽しめる花です。長野県原村では、冷涼な気候がシクラメンの栽培に適しています。伊藤さんは、シクラメンの栽培に情熱を注ぎ、様々な品種を育てています。」



温室で栽培されているシクラメン。鉢の大きさも色も形のさまざま



温室で栽培されているシクラメン。鉢の大きさも色も形のさまざま



温室で栽培されているシクラメン。鉢の大きさも色も形のさまざま

早出し作戦

「シクラメンは、花の色も形も多彩で、冬から春にかけて長く楽しめる花です。長野県原村では、冷涼な気候がシクラメンの栽培に適しています。伊藤さんは、シクラメンの栽培に情熱を注ぎ、様々な品種を育てています。」

「シクラメンは、花の色も形も多彩で、冬から春にかけて長く楽しめる花です。長野県原村では、冷涼な気候がシクラメンの栽培に適しています。伊藤さんは、シクラメンの栽培に情熱を注ぎ、様々な品種を育てています。」

「シクラメンは、花の色も形も多彩で、冬から春にかけて長く楽しめる花です。長野県原村では、冷涼な気候がシクラメンの栽培に適しています。伊藤さんは、シクラメンの栽培に情熱を注ぎ、様々な品種を育てています。」

「シクラメンは、花の色も形も多彩で、冬から春にかけて長く楽しめる花です。長野県原村では、冷涼な気候がシクラメンの栽培に適しています。伊藤さんは、シクラメンの栽培に情熱を注ぎ、様々な品種を育てています。」

手間かかる 葉組み作業

「シクラメンは、花の色も形も多彩で、冬から春にかけて長く楽しめる花です。長野県原村では、冷涼な気候がシクラメンの栽培に適しています。伊藤さんは、シクラメンの栽培に情熱を注ぎ、様々な品種を育てています。」

14年11月号

日本の農村のまちづくり 見学



八ヶ岳中央農業実践大学校の直売所を訪れた福建省の行政区長ら

万人が直売所を訪れ、同校主催の酪農や林業体験には首都圏の小中学生を中心に年間1万5千人ほど申し込みがあると説明。行政区長らは体験学習に訪れていた子どもたちの様子を見たり、直売所に並んだセロリが「大きい」と驚いたりしていた。

一行は八ヶ岳美術館や八ヶ岳自然文化園も見学。福州市永泰県崇口鎮の行政区長、鮑瑞坊さん(42)は「自然が大切に守られている。山や野菜など写真を撮りたくなる場所があり、観光客が喜びそうだと想像できた」と話していた。

一行は笹川平和財団(東京)の招きで来日し、県内には12日まで3日間滞在。南佐久郡川上村や上高井郡小布施町、東御市も訪れた。

中国の行政区長ら農業大学校など訪問

原村

中国福建省の行政区長ら11人が12日、諏訪郡原村のセロリ畑や八ヶ岳中央農業実践大学校などを視察した。一行は日本の農村地域のまちづくり

を学ぶ目的で、10日間の日程で来日。同校では清水矩宏校長の案内で、校内で栽培している農産物の直売所や牧場を見て回った。

清水校長は、年間8万〜10

期待膨らむ

諏訪の春

6

6日、好天に恵まれた原村の八ヶ岳中央農業実践大学校。標高1300mを超す八ヶ岳山麓もようやく春めき、学生たちが夏に収穫の最盛期を迎える高原野菜の定植に励んでいた。

ビニールハウスでは、野菜専攻の学生7人が発芽したばかりのセロリの苗を植えていた。長さ約3センチの苗を一つ一つ指でつまみ、発泡スチロール製ケースの小さな穴に詰めた土に植える地道な作業。「でも、性に合っているのか楽しいんです」。額にうっすら汗を浮かべた2年の斉藤恭吾さん(19)は言う。

公益財団法人農村更生協会(東京)が運営する全寮制の同校では、県内外からの学生が農業の知識と技術を日々学んでいる。2年で選択する野菜、花卉、酪農、養鶏の4コースのうち、酪農と養鶏専攻は一年を通じて屋外実習があるが、野菜専攻の学生は春から夏に実習が集中する。

高校卒業資格を持つ人が対象の専修科(2年制)には49人が在籍。2年生

学生 夏の収穫楽しみに

八ヶ岳中央農業実践大学校 原村



セロリの苗がずらりと並びビニールハウスで談笑する八ヶ岳中央農業実践大学校の学生。6日、原村

25人のうち、野菜専攻は20人で最多だ。中でも原村が夏場の出荷量で全国一を誇るセロリの栽培は、卒業後に就農を考える学生の関心が高いという。

斉藤さんが6、7日に植えたセロリの苗は6600本に上った。長さ1ミに満たない種をまいたのは2月末。苗はどんどん成長し、5月下旬にかけて大きなプランターに移し替える。雨や高温の影響で腐ったり病気になったりしないよう、温度管理などの徹底も欠かせない。

手間暇かけてようやく収穫時季を迎えるのは、種まきからおよそ半年後。教員の奥久司さん(44)によると、セロリの根元に包丁を入れて収穫する時、手を合わせて感謝する学生もいる。

本年度は8月から9月末まで連日、1日1500本の出荷を計画している。一部は学生が育てるブロッコリーやレタスなどの高原野菜と共に校内の直売所に並べる。この春入学したばかりの岩崎穂さん(21)は茅野市中大塩。6日、長時間同じ姿勢で作業を続けたため、腰を痛めたと言った。だが、夏の収穫を心待ちにしながら、「丸かじりが楽しみ」と笑みをこぼした。